

超高齢社会において社会的ネットワークが健康寿命に与える影響

藤澤ゼミ 2019 年度卒業 S.S

1. はじめに

日本では平均寿命の延伸や少子化の影響で高齢化率は年々上昇している。世界的に見ても長寿国となった日本においては、寿命を伸ばすだけではなく、健康寿命を延伸させることに関心が集まっている。

また、近年では、健康寿命と関連がある要素として、生活習慣改善などの個人の行動以外に社会環境との関係も注目されている。

2. 目的

本研究では、社会的ネットワークの豊かさが健康寿命に影響を与えているとの仮説を立て、影響を与えている場合は、どのような要素が健康寿命を延伸させるのかを探っていくことを目的としている。ここでは、社会的ネットワークの定義を人が持っている人間関係の構造面を量的な側面に着目した評価としている。つまり、いくつかの領域の人と、どのくらいの頻度で会うか、やり取りをしているのかなどを評価する。

3. 内容と方法

社会的ネットワークの豊かさと健康寿命の因果関係を明らかにするために重回帰分析を行った。モデル式は以下の通りである。

$$y = \alpha + \sum \beta_i X_i + \varepsilon$$

従属変数 (Y) は各都道府県の男女別健康寿命である。独立変数 (X) は、男性ダミー、平均気温、年間日照時間、自己啓発活動者率、ボランティア活動者率、スポーツ活動者率、65 歳以上の有業率、65 歳以上の独居率、65 歳以上の未婚率、65 歳以上の施設世帯率、独居率交差項、屋内施設充実度とした。なお、屋内施設充実度には、複数の施設に関して主成分分析を行い、抽出された第一主成分得点を用いている。

4. 結果と考察

分析した結果は、表 1 の通りである。モデルの調整済み決定係数は、0.898 であった。

65 歳以上の有業率、65 歳以上の施設世帯率、65 歳以上の未婚率、スポーツ行動者率、2013・

2016 年ダミーに正の相関、男性ダミー、自己啓発活動者率、65 歳以上の独居率に負の相関があることが統計的に明らかになった。屋内施設充実度や自己啓発活動者率は、健康寿命と正の相関を持つと予想したが、分析からは健康寿命との因果関係はなかった。

分析の結果からは、健康寿命の延伸に繋がる要因は、①スポーツ②有業③未婚④誰かと暮らすことの 4 つであると考えられる。一部の変数は予想と異なる結果となったが、仮説の『社会的ネットワークの充実は健康寿命を延伸させる』は概ね採択されたと考える。

表 1: モデルの回帰係数

	係数	標準誤差	t 値	共線性の許容度	VIF
(定数)	70.5656***	0.681	103.58		
男性ダミー	-5.9680***	0.522	-11.441	0.017	57.392
年間日照時間	0.0002	0	0.865	0.556	1.798
自己啓発活動者率	-0.0468**	0.016	-2.991	0.253	3.948
ボランティア活動者率	0.0151	0.015	0.984	0.397	2.517
有業者率	5.8438**	1.839	3.177	0.046	21.585
65歳以上の独居率	-9.2766***	1.655	-5.606	0.147	6.824
65歳以上の施設世帯率	7.7285***	2.235	3.458	0.38	2.633
65歳以上の未婚率	11.8587**	5.693	2.083	0.254	3.94
スポーツ行動者率	0.0691***	0.015	4.645	0.103	9.662
2013ダミー	0.6252***	0.096	6.525	0.578	1.731
2016ダミー	0.8239***	0.133	6.181	0.303	3.295
独居率交差項	4.4903	2.711	1.656	0.047	21.17
屋内施設充実度	-0.0978	0.072	-1.365	0.23	4.357

***: 1%有意 **:5%有意 *:10%有意

5. おわりに

本研究の分析からは、社会的ネットワークの豊かさは健康寿命に影響を与えていることが明らかになった。具体的には、スポーツや仕事で社会との関わりを持っていることや一人暮らしでないことが健康寿命を延伸させていた。その一方で、未婚率が正に有意であることや自己啓発活動者数が負に有意であることから、ストレスが健康に悪影響を与える可能性も推察される。これらは、今後の課題とする。

<参考文献等>

・川上憲人・小林廉毅・橋本英樹(2006)『社会格差と健康 社会疫学からのアプローチ』東京大学出版会